

平成25年9月26日（木）
（公財）石川県埋蔵文化財センター
担当：調査部国関係調査グループ
伊藤雅文
電話：076-229-4477

七尾市古府ヒノバン^{ふるこ}デニバン遺跡の発掘調査概要
および現地説明会開催の案内について

公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが発掘調査を進めている、七尾市古府ヒノバンデニバン遺跡の調査概要について、以下のとおり公表します。

1 所在地等

- (1) 調査地 七尾市古府町地内
- (2) 関係機関 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所
- (3) 調査原因 一般国道159号建設（七尾バイパス）
- (4) 調査主体 石川県教育委員会
調査担当：公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- (5) 調査期間 平成25年6月7日～同年12月（予定）
- (6) 調査面積 3,900㎡

2 調査の概要

(1) 概要

古府ヒノバンデニバン遺跡は、国史跡能登国分寺跡から北西に約500mに位置する奈良・平安時代の遺跡である。現在、5区ある内のⅠ・Ⅱ区の調査を終了した。

- ・検出遺構：8世紀前葉から中頃（奈良時代）の掘立柱建物8棟、板塀2列など
- ・出土遺物：木簡4点、須恵器（墨書土器1点）、土師器、木製品など

(2) 検出遺構【資料1参照】

板塀（SA01・SA02）で区画された建物群である。

- ・板塀（SA01）から西側には、南北に主軸をもつ建物SB01（5.6m×10m）など7棟、東側には大型建物1棟
- ・これらは方向がそろっており、一体的な建物群

(3) 出土遺物【資料3参照】

建物（SB07）横の落ち込みから、墨書土器と木簡4点が出土した。

- ・墨書土器：「市殿」 『市』を管理する施設の可能性
- ・木簡：第1号 習書木簡「天地玄黄・・・」千字文第一句目、県内初出土
第2号 釈読不能
第3号 習書木簡「余」「令」「人」「入」の文字

第4号 釈読不能

(4) 予想される遺跡の性格

方向がそろった建物配置で、建物規模も大きい。

建物近く（SB07）からの木簡および墨書土器の出土により、『市』などの公的施設である可能性が考えられる。

今後さらに遺構・遺物の検討をおこないつつ調査を進めたい。

《 用語解説 》

・千字文（せんじもん）

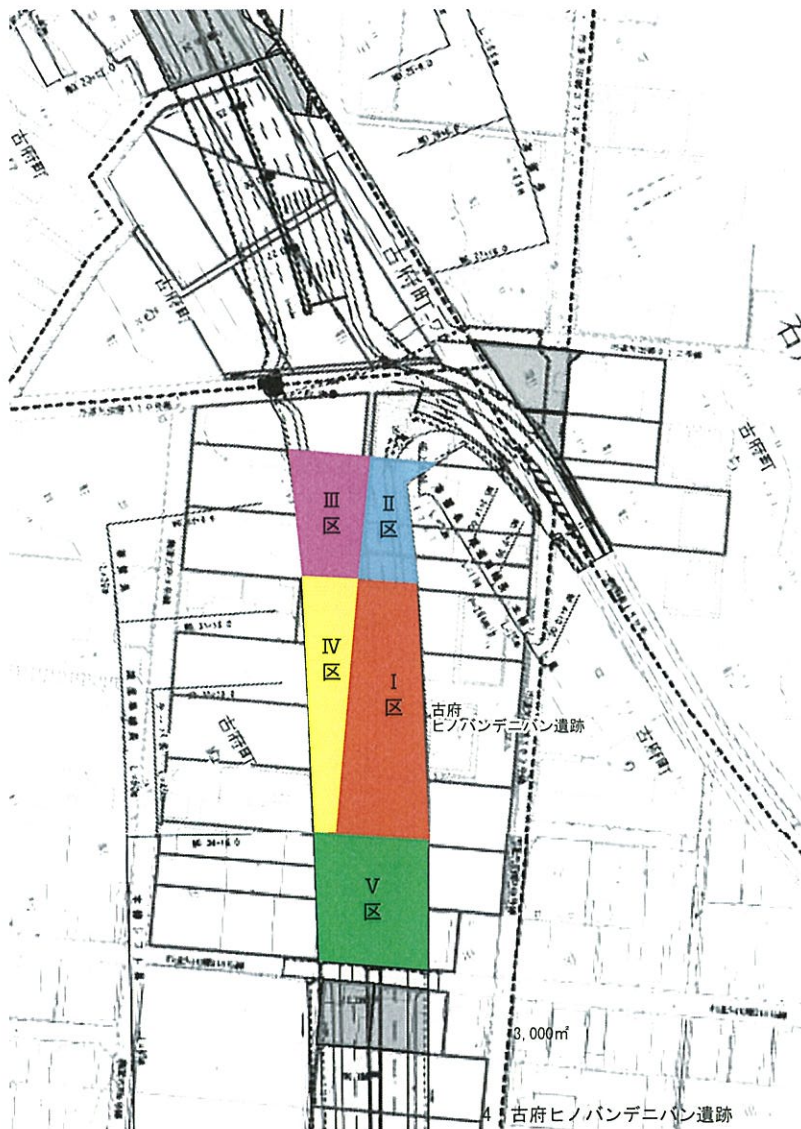
中国南朝・梁（502-549）の武帝が、文官の周興嗣（470-521）に文章を作らせたものである。子供に漢字を教えるために用いられた漢文の長詩であり、1000の異なった文字が使われている。日本では、役人の漢字を学ぶ手本として『論語』とともに用いられた。

・習書木簡（しゅうしょもっかん）

文字の練習や書籍の文字を書き写したものを習書と総称する。飛鳥時代から奈良時代にかけて木簡に書き写したもの。

3 現地説明会

- (1) 日 時 平成25年9月29日（日）午前11時～正午（1時間程度、小雨実施）
- (2) 場 所 七尾市古府ヒノバンデニバン遺跡発掘調査現場
- (3) 目 的 遺跡発掘調査の中間成果を公開する
- (4) 対 象 県民、考古学に関心のある方
- (5) 内 容 発掘調査の概要説明と出土品の公開
- (6) 主 催 石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- (7) 問合せ先 ○（公財）石川県埋蔵文化財センター 調査部 国関係調査グループ
電話 076-229-4477（内線6540）
○石川県教育委員会事務局文化財課 埋蔵文化財グループ
電話 076-225-1842（内線5629）

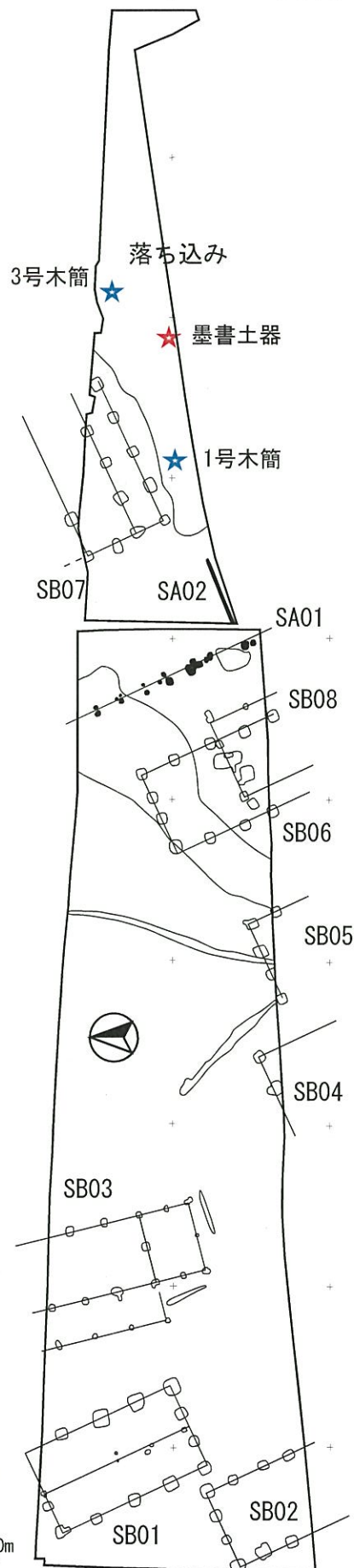


第 1 図 調査区位置図 (1/2,000)

- 凡 例
- ★ 木簡出土地点
 - ★ 墨書土器出土地点

第 2 図 I・II区主要遺構配置図 (1/400)

0 (1:400) 20m





I・II区遠景（西から）



I区の掘立柱建物（SB01）



直径 : 12.7 cm

高さ : 2.5 cm

墨書土器「市殿」(赤外線画像)



「□
夕カ
天
地
玄
黄
宇
宙
洪」



長 : 20.4 cm、幅 : 2.5 cm、厚 3 mm

1号木簡 (左は赤外線画像)



「余
余
令
令
人
人
人
人
人
人
人
人
入
入」



長 : 24.4 cm、幅 : 4.3 cm、厚 4 mm

3号木簡 (左は赤外線画像)